

京都大學附屬圖書館所藏本

『衆經要集金藏論』卷一

山路 芳範

『衆經要集金藏論』がいかなるものであるかについては、編者である道紀の傳記が『續高僧傳』卷三十（大正藏經第五十卷七〇一頁a）にあげられていることから、編纂状況等について知ることができる。

これによると道紀は、初め『成實論』の學僧として正道を悟り名聲を得ることを望んだが、悟って行じなかったならば、根本を悟っていないようなものだと言心した。その後、廣く經論を讀み、在俗信者への布教に轉じ本書を編纂したとしている。更に同行七人と本書をもつて在俗信者へ説きにまわる様子があらわされている。このことから、本書は在俗信者への布教のために編纂されたものであり、編者である道紀を含め同行が、実際に本書を布教に活用したことがうかがえる。

本書に對する研究は、奈良・平安時代の説話文學にどのような影響を與えたか、特に日本靈異記、今昔物語集との關係に向けられた。このことは、我が國においても本書の編纂目的が受け入れられていた、ということができないのではないだろうか。

またこの編纂が行われた時期に北周の武帝による廃佛があつたため、本書の初めに邪見についてのものがあげられているとしている。本書には序文が附されており、これからも編纂状況をみることもできるが、こちらでは武帝

による廃佛に際して、護法のために編纂されたことが強調されている。

本書の巻数については『續高僧傳』、序共に七巻と記しているが、序の最後に「都合今、九巻、二十四章、百九十二條有り」と記されていることから、七巻であるのか、九巻なのか不明である。但し、奈良時代に本書が寫された記録が残されており、これによれば我が國に傳來された當初から七巻であつたようだ。

現在、七巻全てをみることはできない。巻一、二と巻六が現存していることが確認されているだけである。

巻一、二については次の三本が報告されている。

(一) 大屋徳城紹介の「長承三年」と記している奥書を持つ藤原時代の寫本。(所在不明)

(二) 京都大學附屬圖書館所藏の「長承三年」と記している奥書のある近世新寫本。

(三) 山田文昭舊藏の「長承三年」と記している奥書を持つ藤原時代の寫本。(大谷大學所藏)

巻六は『興福寺本日本靈異記』の紙背に記されている巻頭を欠く一本が知られているだけである。

前に述べたように、本書に對する研究は奈良・平安時代の説話文學との關係に向けられ、本書そのものに對する検討が進んでいなかったように考えられる。織田得能『佛教大辭典』「金藏經」の項目に、序に示される内容があげられ、『義楚六帖』中に引用されることが紹介されながら、書名が異なるためか、今傳わらずとされたためか、本書と結びつかず、常盤大定は『義楚六帖』中に引用される『金藏經』について經錄にあげられる『金剛藏經』ではないかと推測され、これも本書と結びつくことがなかった。しかし、本書と『續高僧傳』「道紀傳」や『義楚六帖』中にみられる引用文等を検討した結果、『金藏經』は本書の別稱であり、現存する巻一、二、六以外の逸文と考えられるものが『義楚六帖』に引用されていることが判明した。

『義楚六帖』にあげられる引用文を含め、本書そのものに對する研究を進める上で、現存巻一、二、六の翻刻が

必要であるといえる。

ここに翻刻する京都大學附属圖書館所藏本について、雨宮尚治が解説を行っている。その中で大屋の解説をもとにして大屋紹介本の影寫本と推測された片寄正義の説を紹介している。しかし、現在大屋紹介本の所在が不明であり、この影寫本であるのかについては確認ができない。また、大谷大學所藏本と欠字部分や奥書を比較した場合、共通点があり、大谷大學所藏本との關係を考える必要がある。

本書に關する研究については、拙稿『義楚六帖』引用典籍考三』（印度學佛敎學研究第四十二卷第二号）、『金藏經』と『今昔物語集』について』（京都文教研究紀要第五号）を参照されたい。

## 凡例

### 翻刻

一、翻刻に使用した原本は、京都大學附属圖書館所藏本である。

二、行配りは原本の通りとした。

三、漢字は『仏敎難字大事典』有賀要延編、『くずし字用例辞典』児玉幸多編等によつて、いわゆる俗字、異体字、抄物書を正字に改めたが、もとの字体のままにしたものもある。

四、欠損の文字及び判讀不能の文字は□、■で示した。

五、見せ消ち、補入（この補入はこの寫本筆者によつて加えられたものではない）及び轉倒符の付されていた箇

所はそれに従つて改めた。但し、長文によつて行配りが變わる場合、原本の箇所に残し、挿入箇所を\*で示した。

六、句点が朱で付されているが、細かく付された箇所・粗い箇所といった不統一や、誤字脱字等があるため省いた。

七、「」内に、序・卷數を示し、「」内に各卷所載話の掲載順に従つて數字を入れて示した。

八、原本に頭註としてあげられている校異等は省いた。

## 校異

一、『經律異相』、『法苑珠林』に同話があるものについては、これを對校に使用し、同話がないものについては、  
出典とされる經典等を對校に使用し、下に校異を示した。この對校同話箇所については後に示す。

二、この對校に使用する『經律異相』、『法苑珠林』等は大正新脩大藏經所載の本文を用いた。

三、對校同話箇所に該當する語句が無い場合は、×で示した。

四、對校本との語句等の順序の違いや、若干の解説を（）内に示した。

## 對校同話一覧

### 卷一

#### 邪見緣第一

##### 1 迦葉爲蟬肆王說邪見過惡譬喩緣

\*中阿含經（大正藏卷一 五二五a

2 須達家老婢過去起邪見得惡報緣

3 邪見毀滅三寶得惡報緣

### 殺害緣第二

4 釋種過去殺魚今爲流離主所感緣

5 迦留陀夷等過去殺羊得惡報緣

6 毘舍離三十二子過去殺牛得惡報緣

7 微妙過去妬殺小婦子得惡報緣

8 宿大哆過去斫辟支佛臂得惡報緣

9 歸質過去斫辟支佛臂得惡報緣

10 駒那羅過去壞鹿眼得惡報緣

法苑珠林（大正藏卷五三） 八七二 a・八七一 b

觀佛三昧經（大正藏卷十五） 六七五 c

法苑珠林（大正藏卷五三） 八七二 c

十住經（大正藏卷十） 五〇五 a

\* 增一阿含經（大正藏卷二） 六九〇 a

興起行經（大正藏卷四） 一六七 a

法句譬喻經（大正藏卷四） 五九一 a

法苑珠林（大正藏卷五三） 八四一 a

法苑珠林（大正藏卷五三） 八四〇 b

法苑珠林（大正藏卷五三） 七二五 a

\* 阿育王傳（大正藏卷五三） 一〇六 a

\* 菩薩本行經（大正藏卷三） 一一一 b

法苑珠林（大正藏卷五三） 九五九 a

\* 阿育王傳（大正藏卷五〇） 一〇九 b

法苑珠林（大正藏卷五三） 九五九 c

法苑珠林（大正藏卷五三） 九六〇 a

\*との對校については省略語句等が多く、若干の校異にとどめた。

[序]

衆經要集金藏論序

自聲沈越下法城之頂頽光盛四擲邪見之風將舉  
眞途滓遏諸徑奄以紛橫正像陵埃異觀欸然竟起  
時有國王姓宇文名邑<sup>1</sup>跨處西秦自楊正化於甲午年  
中爲惡魔所誤正沒邪海即起狂見傾蕩三尊至  
歲次丁酉<sup>3</sup>之年正月之初魔徒轉盛輒有勢力吞  
滅高氏握羅斯境破壞三寶何可稱言夫惡業不

一

可思議宇文邑<sup>4</sup>至能轉宅之善即作耶群微信之  
心改爲魔眷是時釋徒尼道打作農民振去偏袒  
伽梨遣歸素服羈羅劫掠無友無觀焚誅塔像無<sup>5</sup>  
驚無懼伽藍佛地奚可瞻者路左枝提實難尋覩頑  
冪對此盛唱眞若釋其所趣寔成魔侶人無慧目  
寧體未來現在交殃也誰能覺即時惡業之  
感人有自食其親能使百姓飢殍骨肉盈於衢野

1 邕（北周の武帝）

2 （西曆574年）

3 （西曆577年）

4 邕

5 僧伽

于時有大德沙門記論師見世非常易名河隱論師<sup>1</sup>

1 道紀  
2 何

乃神機操節遐騰萬古之峯智刀高明迹超百令  
之岸和光待物流潤街巷之中厲儉成威獨踰名  
養之外忽逢斯厄四辨奄以停輝遇此奇災無畏  
從茲自用垣仰掉靈像野與泣樹之悲忤愍群生  
薨赴捉身之念遂靜居閑館推採羊鹿之蹤闔扇空  
樓彼察牛車之跡既未闌王殿誰盡葉上之文且沙京

二

都漢中之經少歷歎教門豐廣寫習難周簡摘要

言撰爲約引集成七卷別爲異部乃是衆經之精題<sup>3</sup>

3 一帙七卷

號金藏論師善摸音軌字等彫金巧布篇章言

齊鑲玉談因語行句句分明說果從因文文委悉曲

陳善惡之報若影響之無差流照有緣之徒衆

拔貧窮之根際即是金鉉在世決齷膜啓於慧眼

挑發信珠引寶藏悅於貧女餘羨其高德略

申報趣如之欲盡削報之功非我管知能述耳都合

今有九卷有二十四章有百九十二條

衆經要集金藏論卷第一

〔卷第二〕

邪見緣第一 迦葉爲蜉蝣肆王說邪見過惡譬喻緣

須達家老婢過去起邪見得惡報緣 邪見毀滅三寶

得惡報緣 殺害緣第二 釋種過去殺魚今爲流

離主<sup>1</sup>所感緣<sup>2</sup> 迦留陀夷等過去殺羊得惡報緣

1 王  
2 滅

三

毘舍離三十二子過去殺牛得惡報緣 微妙過去妬殺小婦

子得惡報緣 宿大哆過去斫辟支佛臂得惡報緣

3 殺  
4 ×

歸質過去斫辟支佛臂得惡報緣 駒那羅過去壞

5 師

鹿眼得惡報緣 并十條

〔邪見緣〕

邪見緣第一 如佛經說愚癡之人不識因果妄起

邪見謗無三寶四諦無施無祠乃至無善無惡無善惡

業報無今世無後世無衆生受生如是破善惡人名斷



〔1〕

善根決定當墮阿鼻地獄 迦葉爲蜚肆王說邪見過

惡譬喻緣

出中阿含經略要

昔斯和提國王名曰蜚肆起

惡邪見不信因果謗無後世來詣尊者鳩摩羅迦葉

所語尊者言我作是見無有衆生於後世是事云何尊

者答言我問王隨王意答今此日月爲是今世爲後世

耶蜚肆王言沙門今者雖作是說我猶不信所以然者

我有知親常作不善復有知親常脩善業俱病欲終

四

我往語言沙門常說作不善者生地獄中受無量苦作

善生天受極快樂汝若命終要生地獄若生天者可還語

我彼受教已都無有來語我之者以此故知無後世也尊

者答王我今爲王說於譬喻如有罪人王勅殺之使

受王教反縛將去樹下斬首罪人臨死請乞暫辭歸

家父母妻子眷屬使放以不王言不也尊者白王生

地獄者獄卒執治不得告王亦復如是又語王言如

人墮廁既得出已淨洗香塗復樂墮不王言不也

尊者白王若人生天受天快樂厭惡於人不來告王

亦復如是王應如是觀於後世莫如肉眼之所見王語

尊者我今雖復聞如是說但我此見終不能捨尊者自<sup>1</sup>

王我今爲王復說譬喻如有二共行治生路見有麻二

人即取自重而擔至於前路復見有銀一人捨<sup>4</sup>麻取銀

而去次至前路復見有金時擔銀人語擔麻人汝可捨

五

麻取金而去擔麻人言我此麻擔縛束已好不能捨也時

擔銀人強奪麻擔撲著於地而挽壞之彼擔麻人語擔

銀人我此麻擔縛束堅好從遠擔來我要負歸終不捨

之汝自取金勿憂我也彼擔銀人捨銀取金自重而歸父

母遙見歡喜讚歎至家供給父母妻子布施作福報生<sup>14</sup>

善處常受快樂彼擔麻人負麻歸家父母妻子遙<sup>18</sup>

見迎罵汝是罪人負此麻來不得供養父母妻子

1 白

2 朋友二人 3 捨家

4 棄麻擔

5 者

6 歸 7 已好裝治縛束已堅

8 拋 9 者

10 堅所來處遠 11 自

12 知 13 自取金重擔而還擔金人歸

14 昇上

15 善果善報生天長壽 16 者 17 環歸其家 18 ×

19 來無德人來汝因此麻

脩善作福昇天受樂王亦如是不捨邪見當受惡報如  
彼癡人不捨麻擔王語尊者我作此見世人皆知我終  
不捨若我捨者人聞皆言婢肆王見爲於沙門<sup>1</sup>之所  
降伏我耻此事是故不捨尊者爲王復說譬喻如養  
猪人行見乾糞念中飯猪即取盛裸自重負歸至於  
中路值天大雨糞釋流溢洗汚身軀故負持去終不棄  
捨王亦如是執此邪見保固不捨如養猪人不捨臭糞王

六

語尊者我此見勝終不能捨尊者語王我今爲王便說  
一喻王若受者便得善利若不能受當與王勝如一大  
猪爲諸猪王值見一虎猪王自念若與共鬪虎必殺我  
若畏走者諸猪輕我即作方便而語虎言若欲與鬪  
者便可共鬪若鬪不者借我道過虎語猪言今共汝  
鬪不借汝道時猪語虎汝可小住待我著於祖父時  
鎧當來共鬪虎聞念言彼非我敵況祖父鎧即便語

1 鳩摩羅迦葉之

2 燒 3 × 4 而去即取負去

5 道 6 遇 7 液 8 漫澆汚其身

9 ×

10 五百 11 遇 12 × 13 者虎

14 曰 15 ×

16 不爾 17 聽汝共

18 × 19 × 20 被著

21 還當 22 戰彼 23 耶

猪隨汝所著猪即入厠糞中婉轉塗身其糞來語虎言

1 猪曰 2 欲 3 婉轉糞中

汝欲鬪者便共可鬪若不鬪者借我道過虎見聞臭

4 可共 5 爾

便語猪言借汝道過猪得道已向虎自讚而說偈言

6 曰 7 過 8 × 9 頌曰

虎汝有四足 我亦有四足 汝來共我鬪 何意憶而走

10 怖

虎時聞已即復說偈而答猪曰 猪汝可速去 糞臭不可堪

11 時虎 12 亦 13 頌

汝鬪欲求勝 我今與汝勝 尊者語王我亦如是

14 曰汝毛豎森森諸畜中下極

若王此見欲求勝者今與王勝猶如彼虎與猪勝也王

15 時猪自誇復說頌曰摩竭鷲二國聞我共汝鬪汝

七

來共我戰何以怖而走虎聞此已復說頌曰舉身

聞此語即便降伏歸敬三寶廣行布施供養衆僧雖廣

毛皆汚猪汝臭熏我汝

脩福但由昔來邪見所芳命終之後生四天王小菴樹林空宮

16 汝 17 樟

殿中以此因緣一切衆生應起正見莫生邪見後自敗身

悔無所及

[2]

18 母

須達家老婢過去起邪見得惡報緣 出觀佛三昧經略要

19 爾時世尊告父王言 20 母

昔佛在世時舍衛城中須達長者有一老婢名毘低

21 謹勤

羅甚慙家業長者愚癡迷惑受請佛及僧供養老

22 勅使手執庫鑰出入取與一切委之須達請佛及

僧供給所須時病比丘多所求索

婢慳貪<sup>1</sup>嫌佛法僧<sup>2</sup>而作是言我家長者愚癡迷惑受沙

1 母 2 惜願 3 及與衆僧

門術<sup>4</sup>即發惡願何時當得不聞佛名不聞僧名如是

4 是諸乞士多求無厭何道之有作是語已復

惡聲遍<sup>5</sup>舍衛城末利夫人聞已念言須達長者如好

5 展轉遍 6 此語已而作是

蓮華人所樂見云何復有毒蛇護之喚須達婦而語

之言汝家老婢惡口誹謗何不償<sup>7</sup>出時須達婦跪<sup>8</sup>白夫人

7 擯 8 跪

鳶掘魔等弊惡之人佛尚能伏何況老婢末利聞之

9 央

歡喜語言我明請佛汝遣婢來到明食時長者遣婢

八

持滿瓶金助王供養末利見來而作是言此邪見

人佛若化度必我獲利佛於爾時從正門入難陀侍

10 我必

左阿難侍右羅暖<sup>11</sup>羅佛後老婢見心驚毛豎言此惡

11 睽 12 佛心

人隨我後至即時退走從狗竇出狗即竇<sup>13</sup>閉四門

13 竇即

皆塞唯正門開婢即覆面以扇自障佛在其前令扇

以如鏡無所障礙迴頭東視東方有佛南西北方亦皆

14 ×

如是是舉頭仰者上方有佛低頭伏地地化爲佛以

15 × 16 看

手覆面手十指頭皆化爲佛老婢閉目心眼開見虛空化  
佛滿十方界當時城中有廿五柁陀羅女復有五十婆  
羅門女及諸雜類并及末利夫人宮中合五百女不信佛  
者見佛如來足出虛空爲於老婢現無數身皆破邪見  
頭頂禮佛稱南無佛稱已尋見化佛如林即發菩提老  
婢邪見仍未生信猶見佛故除却八十萬億劫中生死  
<sup>4</sup> 況復善意恭敬禮拜

之罪得 \* 見佛已疾走歸家白大家言我於今日愚大惡

九

對見於瞿曇在王宮門作諸幻化身如金山目踰<sup>5</sup>青蓮  
放勝光明作此語已入木籠中以皮覆籠裸頭而臥佛  
還祇洹<sup>8</sup>末利白佛願化邪女莫還精舍佛告末利此婢  
罪重於佛無緣於羅睺羅有大因緣佛既還已遣羅  
睺羅詣須達家度彼老婢羅睺變化<sup>9</sup>作輪轉<sup>10</sup>王時千

<sup>11</sup> 爾時聖王告須達言婦家老女衆相貌魏晉今

二百五十比丘化爲千子到須達家 \* 以彼老婢爲王女寶<sup>13</sup>  
<sup>14</sup> 老婢歡喜敬禮聖王王宣十善婢聞十善心即調伏時羅

1 施

2 步

3 由

4 × (この補入の文は觀佛三昧經による)

5 逾

6 以百張 7 木籠上白氈纏頭却臥黑處

8 桓

9 × 10 轉輪聖

11 × (以下の補入の文は觀佛三昧經による)

12 卿 13 玉

14 爾時聖王即便如意珠照曜女面心既調伏

喉羅及諸比丘還復本形老婢見已即作是言佛法清淨不捨衆生如<sup>1</sup>我弊惡猶尚化度即受五戒得<sup>2</sup>須

1 知 2 成

陀洹將詣佛所爲佛作禮懺悔前罪求佛出家得

阿羅漢<sup>3</sup>三明六通具八解脫於虛空中作十八變波斯

3 × (この文は觀佛三昧經による)

匿王末利夫人見已白佛此婢前世有何罪咎生爲婢

4 × 5 佛言

使復有何福値佛得道佛告王曰過去久遠有佛出世

名一寶蓋燈王入涅槃後於像法中有王名曰雜寶華

十

<sup>6</sup>到僧坊中

6 × (この補入の文は觀佛三昧經による)

光子名快見\*出家學道自恃王子常懷憍慢和<sup>7</sup>上

7 尚

爲說甚深槃若波羅蜜經大空之義王子聞已謬解邪

8 般

說師滅度後即作是言我大和上空無智慧但讚空

9 尚

<sup>10</sup>又有比丘名德花光善說法要誘進

10 復 (この補入の文は觀佛三昧經による)

義願我後生不樂見也\*我阿闍梨智惠辦才願於生

11 華 12 說 13 慧辯

生爲善智識作是語已教諸徒衆皆行邪見雖持禁

14 知

<sup>15</sup>如射箭頭

15 × (この補入の文は觀佛三昧經による)

戒由謗槃<sup>16</sup>若謬解邪說又命終之後\*墮阿鼻地獄八十億

16 般 17 × 18 ×

劫受苦無量罪畢出獄爲貧賤人五百身中聾癡無

目千二百身恒<sup>1</sup>爲人婢佛告大王時和<sup>2</sup>上者今我身是

依大乘經阿闍梨者今羅睺羅是王子比丘此<sup>4</sup>老婢

是徒衆弟子今邪見女等發菩提心者是\*依<sup>5</sup>大品經說<sup>6</sup>謗

<sup>7</sup>佛告父王邪見惡人見佛行時尚得如是無量福德何況觀佛行及像行者

大乘般若經者墮阿鼻地獄無量百千萬億歲中受

極苦痛從一地獄至一地獄若此劫盡生於他方大地獄

中他方劫盡復生他<sup>10</sup>方大地獄中如是展轉遍十方界他

方劫盡還生此間大地獄中罪畢生畜生中亦遍十方界

十一

畜生罪畢來生人中無佛法處貧窮下賤諸根不

具常癡狂騷無所別知也<sup>12</sup>

邪見毀滅三寶得惡報緣 出薩遮尼乾子經略要 昔佛

在世時鬱闍延城有嚴熾王問薩遮尼乾子言若有

惡人不信三寶焚燒塔寺經書形像惡言毀訾言

造作者無有福德其供養者虛損現在無益未

來或嫌塔寺及諸形像妨是處所破壞除滅送量<sup>13</sup>

1 常 2 尚

3 × 4 ×

5 如 6 云若人不信

7 × (以下の補入の文は觀佛三昧經による)

8 此 9 直

10 此

11 地獄罪

12 知雖非愚畜縱是聰人妄生異執者亦名邪見

13 置



餘處或破沙門房舍窟宅或取佛物法物僧佛園<sup>1</sup>

林田宅象馬車乘奴婢六畜衣服飲食一切珍寶或

捉沙門策役驅使責其發詞罷令還俗或時輕

心種種戲弄或時毀咎罵詈誹謗或以杖木自手鞭

打或以種種傷害其身如是惡人攝在何等衆生分□□<sup>3</sup>

答言大王攝在惡逆衆生分中大王應當上品治罪□□<sup>4</sup>

以然者以作根本極重罪故有五種罪名爲根本何□□<sup>5</sup>

十二

爲五一破壞塔寺焚燒經像取三寶物自作教人身<sup>7</sup>

作助喜是名第一根本重罪二謗三業<sup>8</sup>乘法毀咎

留難隱弊覆藏是名第二根本重罪三若有沙門

信心出家剃除<sup>9</sup>頭髮身著袈裟或有持戒或不持戒

繫閉牢獄枷隙<sup>11</sup>打縛策役驅使責諸發詞<sup>12</sup>或脫

袈裟逼令還俗或斷其命是名第三根本重罪

四於五逆中若作一逆是名第四根本重罪五謗無

1 園

2 調

3 中（製本される過程で地の部分が裁斷され

判讀不能であるが、大谷大學所藏本では法

苑珠林と同じ。）

4 所（3と同じ。） 5 等（3と同じ。）

6 梵 7 見

8 ×

9 鬚 10 鬚

11 鎖 12 調

一切善惡業報長夜常行十不善業不畏後世自作

教人堅住<sup>1</sup>不捨是名第五根本重罪若犯如是根

本重罪而不自悔決定燒滅一切善根趣大地獄受無間苦

永元<sup>2</sup>出期若國內有如是惡人毀滅三寶一切羅諸漢<sup>3</sup>

仙聖人出國而諸天悲泣善神不護大臣相殺四方賊起

龍王隱伏水旱不調風雨失時五穀不熟人民飢餓迭相

食噉白骨滿野多饒疫病死亡無數人民不智<sup>7</sup>自

十三

思是過反怨諸天及善神祇

〔殺害緣〕

殺害緣第二 十地經說殺生之罪能令衆生墮

於地獄畜生餓鬼若生人中得二種果報一者短命二

〔4〕

者多病 釋種過去殺魚今爲流離王所滅緣

出增壹阿含經略要 昔佛在世時舍衛國主波斯匿王

最大夫人名曰末利生一太子字毘流離末利本是釋<sup>11</sup>

摩男家婢所生也流離太子至年八歲波斯匿王遣

1 堅

2 无 3 漢諸佛

4 而去 5 各自

6 遞

7 知

8 住

9 第一

10 × (この名前は増一阿含經卷第二十六第二  
經にはあげられていない。)

11 摩呵 12 年向

詣外祖釋摩男家學諸射術外祖爲集五百童<sup>1</sup>

子使共學射諸釋城中新造一堂先欲請師佛於<sup>4</sup><sup>5</sup>

中供養流離太子將諸童子輒在中戲諸釋見之打<sup>10</sup>

僕罵辱此婢生物敢入中坐有梵志子名曰好苦流離<sup>11</sup>

語言諸釋辱我我紹王時汝告此事父王崩後流離紹<sup>12</sup><sup>13</sup>

位好苦白王釋本毀辱王當憶之流離王聞集四部兵<sup>14</sup>

向迦略毘羅往征釋種佛知欲來爲親族故逆在道邊<sup>15</sup><sup>16</sup><sup>17</sup>

十四

枯樹下坐流離見佛下車白佛多有好樹何故在此枯<sup>18</sup><sup>19</sup><sup>20</sup>

樹下坐世尊告曰親族之陰故勝外人時流離王聞佛<sup>21</sup>

此語知爲親族即迴軍還好苦後時重白所辱王復<sup>22</sup>

集兵往征釋種大目犍連聞流離王往征釋種來至<sup>23</sup><sup>24</sup>

佛所而白佛言我今堪任移諸釋種著虛空中佛告<sup>25</sup><sup>26</sup><sup>27</sup><sup>28</sup>

目連汝今頗能移釋種業著虛空中目連答佛實不<sup>29</sup><sup>30</sup><sup>31</sup>

能也但諸釋種宿緣已熟今當受報無能救者諸釋于<sup>32</sup>

1 摩呵 2 舍 3 釋種

4 射術 5 迦毘羅衛 6 起 7 講堂 8 應

9 如來 10 五百

11 ×

12 王位 13 爲王

14 王當憶本釋所毀辰

15 迦毘羅越 16 世尊 17 逆流離王便在一

18 世尊 19 世尊 20 更

21 世尊

22 四種兵 23 乾 24 聞已

25 世尊 26 世尊 27 此迦毘羅越 28 世尊

29 堪 30 宿緣 31 報曰不也世尊

32 今日宿緣

時門門自守時流離王引軍前進直到門下遣速開  
 門<sup>1</sup>魔王爾時變作一釋語<sup>2</sup>諸釋言速釋<sup>3</sup>摩男來至王  
 所與開門勿共受困即與開門流離入城取諸釋  
 殺時<sup>4</sup>釋摩男來至王所從王乞願聽我沒水隨我遲  
 疾放<sup>6</sup>諸釋種使<sup>7</sup>得逃走若我出水隨意殺之王即聽  
 許時<sup>8</sup>釋摩男即入水底以髮繫樹自沉而死王放諸  
 釋隨意而出是時諸釋爲業所迷從東門出還南

十五

門入從西門出還北門入時流離王取諸釋種九千九  
 百九十萬人埋<sup>9</sup>著地中令象踰殺流血成池<sup>10</sup>城廓宮殿  
 皆盡焚燒時流離王殺諸釋竟還歸本國佛與比  
 丘往觀親族到迦毘羅尼拘留留告諸比丘我昔在  
 中廣說其法數千萬衆於中得道如今虛空<sup>12</sup>無有人  
 民<sup>13</sup>自今以後如來不復更<sup>14</sup>至此間佛語比丘今流離王  
 及諸兵衆不久在世劫後七日盡當磨滅時流離王聞<sup>16</sup>

1 爾時弊魔波旬 2 形告 3 ×

4 摩呵 5 我願

6 使 7 竝

8 摩呵男釋

9 × 10 河

11 (この文は13の後にある。) 12 空虚

13 (この後に11がある。) 14 更不復

15 世尊告諸 16 此

已恐怖至七日頭將諸兵衆到阿脂羅河側娛樂通夜不  
還至半夜中忽有雲起暴風疾雨王及兵衆盡沒水  
死復有<sup>4</sup>天火焚燒宮殿佛告比丘時流離王及諸兵衆  
由殺諸釋身壞命終入阿鼻地獄比丘問佛釋種往昔  
作何因緣今受此報佛告比丘過去久遠此羅閱城有  
捕魚村時世飢饉有大池水又多飢魚城中人民捕魚  
食之時有二魚一名拘瑣二名兩舌各相謂言我於衆

十六

人先無過失取我殺噉我等來世當報此怨爾時村中  
有一小兒<sup>13</sup>見人捕魚隨喜而笑魚岸上跳以杖打頭佛  
告比丘昔捕魚人今釋種是拘瑣魚者流離王是兩  
舌魚者今好苦是爾時小兒今我身是釋種爾時由殺  
魚故無數劫中地獄受苦餘殃不盡今受此報我於  
爾時由打魚頭今患頭痛如似石押猶戴須彌以此  
因緣衆生應當護身口意勿行殺害也魚在岸跳<sup>22</sup>

1 往 2 即於彼宿是時夜半有非時

3 爲水所漂皆悉消滅身壞命終入阿鼻地獄中

4 燒內 5 世尊

6 世尊

7 世尊 8 昔日之時 9 城中

10 復饒

11 前 12 ×

13 × 14 ×

15 爾時釋種

16 × 17 對 18 ×

19 坐見而笑之

20 諸比丘 21 意行當念恭敬承事梵行人

22 捕魚置岸上以杖敲其頭（興起行經の偈文）

[5]

杖打頭二句出興起行經說依法句喻經說目連私

取諸釋檀越知識五千人盛鉢中著虛空星宿際流

離王殺諸釋竟目連往者中皆已死盡

迦留陀夷等過去殺羊得惡報緣

出鼻奈耶  
經略要

昔佛在世時舍

一衛國中有一婆羅門恒常供養迦留陀夷其婆羅門

唯有人一子長爲取婦時婆羅門臨終勅子吾死之後

汝尊者著迦留陀夷如我今日莫使有乏父母亡後子奉父

十七

母教還復供養迦留陀夷如父母在日等無有異後

於異時婆羅門子出行不在囑婦供養是時便有五

百群賊中有一賊面首端正婦遙見之遣使喚來便共私通

迦留陀夷數往其家婦恐沙門漏泄此事後共此賊方便

殺之波斯匿王聞於尊者迦留陀夷爲賊所殺王憶尊者

瞋恚懊惱即便誅婆羅門家并殺左右十八餘家捕

五百賊斬截手足擲著壑中比丘見已而白佛言迦

1 於是目連禮已便去自以私意鉢中人者今皆

死盡（法句譬喻經による文）

2 × 3 ×

4 ×

5 汝看 6 ×

7 ×

8 日

9 即時

10 壑

〔6〕

留陀夷本造何惡爲婆羅門婦所殺耶佛告比丘迦

留陀夷乃往過去作天祠主有五百人牽其一羊截

於四足將詣天祀而共乞願祀主得已即便殺之由

殺羊故墮於地獄受無量苦昔天祀主今迦留陀

夷是雖得羅漢餘殃不盡今得此報爾時羊者

今婦是也昔五百人截羊足者今日爲王截其手足

五百賊是佛告比丘若人殺害所受果報終不朽販

十八

毘舍離三十二子過去殺牛得惡報緣 出賢愚經略要 昔佛

在世時舍衛城中有一長者名梨耆彌有七頭兒皆以婚

娶最小兒婦字毘舍離甚有賢智無事不知時梨

耆彌以其家業悉皆付之由其賢智波斯匿王敬拜

爲妹有時懷妊月滿便生三十二卵其一卵中出一男兒顏

貌端政勇健非汎一人之力敵於千夫長爲納婦皆是

國中豪賢之女時毘舍離請佛及僧於舍供養佛

1 作大

2 敗

3 黎

4 黎

5 禮

6 妊

8 正

9 凡

7 ×

爲說法合家悉得須陀洹果唯最小兒未得道迹乘  
象出遊<sup>1</sup>逢輔相子乘車橋上便捉擲著橋下墮<sup>2</sup>中傷  
破身體來告其父輔相語子彼力<sup>3</sup>莊<sup>4</sup>又是因親難與  
諍勝當思密報即以七寶合作馬鞭三十二枚純剛作刀  
著馬鞭中一人贈一枚諸人受之歡喜納受<sup>9</sup>恒捉在手  
出入見王國法祀不帶刀輔相見受白王讒毘舍離兒  
年盛力莊<sup>12</sup>一人當千今懷裏異計謀欲殺王各作

十九

利刀置馬鞭中事審明矣王即索看果如所言王  
意謂實皆悉殺之殺竟便以三十二頭盛著一函封閉印  
之送與其妹當日毘舍<sup>14</sup>請佛及僧就舍供養見王送  
函謂王助供即欲開看佛止不聽待僧食竟飯食<sup>15</sup>  
訖已佛爲說法無常苦等時毘舍離得阿那含佛去  
之後開函見兒三十二頭由斷欲愛不至懊惱但作是  
言痛哉悲矣人生有死不得長文驅馳五道何<sup>16</sup>

1 游 2 墮

3 人力壯 4 國

5 × 6 綱

7 × 8 愛 9 常

10 見王禮 11 便向

12 壯 13 ×

14 舍離

15 舍果

16 久



苦乃爾三十二兒婦家親族聞此事理懷惱唱言大王無

道枉殺善人共集兵馬欲往報仇<sup>1</sup>王時恐怖<sup>2</sup>走向佛所諸

人引軍圍遶<sup>3</sup>祇桓阿難見王殺毘舍離三十二子婦家親族

欲爲報仇<sup>4</sup>合掌問佛有何因緣三十二兒爲王所殺佛告阿難

乃往過去三十二人盜他一牛共牽將到一老母舍欲共殺之老母

歡喜爲辦殺具臨下刃<sup>5</sup>時牛跪乞命諸人意盛遂爾殺

之牛死誓言汝今殺我我將來世終不放汝死已共食老

二十

母食飽歡喜<sup>6</sup>而言由來女<sup>7</sup>客未如今日佛告阿難爾時

牛者今波斯匿王是盜牛人者是毘舍離<sup>8</sup>三十二子是時老母者

今毘舍離是由殺牛故五百世中常爲所殺老母歡喜五

百世中常爲作母兒被殺時極懷懊惱今值我故得

阿那含<sup>9</sup>婦家親族聞佛所說恚心便息各作是言此人

自種今受其報由殺一牛<sup>10</sup>猶尚如是何況多也波斯

匿王是我之主云何懷怨而欲殺害即投王前求哀懺

1 讎 2 怖

3 繞

4 讎

5 刀

6 之 7 安

8 今

9 含果

10 今

11 王

悔王亦釋然不問其罪阿難白佛復脩何福豪貴

勇健值佛得道佛告阿難乃往過去迦葉佛時有一

老母合集衆香以油和之欲往塗塔路中逢值三十二人

因而勸之共往塗<sup>1</sup>竟發願願<sup>2</sup>生生之處尊榮豪貴

恒爲母子值佛得道從是以來五百世中生恒尊貴常

爲母子今值佛故各得道迹

微妙過去妬殺小婦子得惡報緣 出賢愚經略要 昔佛在世

二十一

時有微妙比丘尼得阿羅漢<sup>6</sup>與諸尼衆自說往昔所造

善惡業行果報告尼衆曰乃往過去有一長者其家

臣<sup>7</sup>富唯無子息更取小婦夫甚愛念後生一男夫婦

敬重視之無厭大婦心妬私自念言此兒若大當攝家

業我唐勲<sup>8</sup>苦聚積何益不如殺之即取鐵針刺

兒頂上後遂命終小婦疑<sup>9</sup>是大婦妬殺即便語言

汝殺我子大婦爾時謂無罪福反報之殃即與咒

6 漢果

7 巨

8 勤

9 願 10 是疑 11 ×

1 塗塔塗 2 所 3 ×

4 常 5 常

誓若殺汝子使我世世夫爲蛇螫所生兒子水漂

1 ×

狼噉自食子肉身現生埋父母居家失火而死作是誓

已後時命終緣殺兒故墮於地獄受苦無量地獄罪畢得

生人中爲梵志女年漸長大適娶夫家產生一子後復

懷妊月滿欲產夫婦相將向父母舍至於中路腹痛遂產

2 滿月

夜宿樹下夫時別臥前所咒誓今悉受之時有毒蛇螫

殺其夫婦見夫死即便悶絕後乃得甦至曉天明便取

3 蘇

二十二

大兒著於肩上小者抱之涕泣進路路有一河深而且

4 漢

廣即留大兒著於此岸先抱小者度著彼岸還迎

太兒兒見母來入水趣母水即漂去母尋追之力不能救

5 大

須臾之間俄爾沒死還趣小兒狼亡噉訖但見流血

6 來

狼藉在在地母時斷絕良久乃甦遂前進路逢一梵志

7 × 8 蘇

是父親友即向梵志具陳辛苦梵志憐愍相對啼

哭尋問居家中平安以不梵志答言汝家父母眷

9 × 10 ×



家由於過去施辟支<sup>1</sup>食發願力故今得值佛出家脩

道得阿羅漢<sup>2</sup>三明六通具八解脫達知先世殺生之業所

作咒誓墮於地獄現在辛酸受斯惡報無相伐者微妙

自說昔大婦者今我身是雖得羅漢恒熱針鐵<sup>4</sup>從頂

上入足下而出晝夜患此無復堪忍殃禍如是終無朽敗

宿大哆過去殺辟支佛得惡報緣<sup>6</sup> 出阿育王經略要 昔阿

育王弟名宿大哆信敬外道不信佛法譏毀沙門好

二十四

衣美食不能苦行何有解脫闇地常言我兄阿恕

伽無所別知爲諸沙門之所欺誑王聞弟言共輔相<sup>7</sup>臣<sup>8</sup>

方便伏之合其生信王脫天冠入室洗浴臣語大哆王若

死者汝當代之試著天冠爲好不耶大哆即著御冠<sup>12</sup>

坐上坐上王出見之而語之言我猶未死汝已爲王命旃<sup>14</sup>

陀羅一手捉劍<sup>17</sup>一手捉鈴勅令殺之臣諫王言是王親弟唯

願捨之聽令懺悔王用臣語即復聽使七日作王然後殺<sup>18</sup>

1 支佛

2 ×

3 代

4 常 5 鐵針

6 怨伽

7 語 8 曰善作

9 浴室浴 10 輔相 11 宿大哆言

12 也宿大 13 ×

14 御 15 曰 16 有眞

17 劍

18 × 19 使 20 汝之 21 × 22 × 23 爲

之於七日中王勅爲作百千音樂百千妓女圍遶給侍百千<sup>1</sup>  
 婆羅門合掌稱善四<sup>5</sup>梅陀羅以血塗手狀似殺人高聲唱  
 言一日已過餘六日在屠裂爾身斷汝命根日日如是過七日已<sup>8</sup>  
 將至王所王問弟言汝七日中極爲樂不弟答王言我七日中目  
 不見色耳不聞聲鼻不嗅香舌不別味見旃陀羅捉劍<sup>11</sup>  
 唱言一日已過餘六日在日日如是我日七爲死災所逼思惟<sup>13</sup>  
 怖畏通夜不寢何有樂也王言汝憂一身之死猶尚不以王<sup>14</sup>  
 爲樂何況沙門晝夜常觀生老病死憂悲苦惱<sup>15</sup>  
 之所逼切及三惡道種種諸苦云何當言沙門釋子不<sup>16</sup>  
 能苦行何有解脫弟即悟解尋白王言我今日當歸依<sup>17</sup>  
 三寶王聞弟言即抱弟頭而語弟言我欲使汝信敬三<sup>19</sup>  
 寶作是方便不欲毀毀汝弟聞王言即以香華供養佛塔<sup>23</sup>  
 向鷄頭寺到上坐所聽其說法既聞法已尋樂出家上坐教<sup>25</sup>  
 令先來白王導出家竟王聞弟語抱頭大哭而語弟言汝<sup>26</sup>

二十五

15 × 16 釋子  
 17 無 18 ×  
 19 × 20 頸 21 作是 22 佛法  
 23 必殺 24 ×  
 25 頭摩  
 26 頸哀泣 27 ×

少婉樂<sup>1</sup>出家名爲受醜陋法捨榮<sup>2</sup>飭好著糞掃衣而行<sup>3</sup>

乞食汝寧<sup>4</sup>堪此弟語王言王不須哭生死轉輪未曾休

息會必別離何用哭爲我不恨王亦復不求天上之樂

錢財寶物我畏生死爲得涅槃而求出家王見意盛

而語弟言汝今並可入其宮中誠學乞食能堪以不受教

入宮隨乞得食若好若惡得即便食不生增減王見是已

出家既

遂聽\*出家已得阿羅漢<sup>9</sup>三明六通具八解脫還來見王

二十六

見下坐五體投地合掌泣淚扶上御坐手自授食食訖

辭去王與群臣<sup>10</sup>一切人民圍遶<sup>11</sup>送出弟到城外勇身虛

空飛騰而去後到邊國爲夜叉鬼斬頭而死諸比丘見而

問尊者憂波翹<sup>15</sup>多有何因緣尊者答言過去久遠有一

獵師水邊羅縞<sup>18</sup>鹿有辟支佛<sup>19</sup>於其縞傍樹下而坐獵師

見已以劍斬頭由殺辟支佛無量億劫墮大地獄受苦無

量今雖得道猶爲鬼殺復由過去迦葉佛時供養衆僧

1 × 2 × 3 食於乞人

4 汝少婉樂不 5 (この前に6の文が入る。)

6 (この文は5の前にある。)

7 試

8 亦復

9 道

10 五百輔相城内 11 繞 12 × 13 門 14 踊

15 優 16 纏 17 之世

18 著 19 × 20 在 21 邊

22 劍 23 斬 24 (この前に25の文が入る。)

25 (この文は24の前にある。)

26 大苦惱乃至

[9]

出家持戒<sup>1</sup>以供養<sup>2</sup>故得生貴族由出家故今得羅漢  
歸質<sup>4</sup>過去斫辟支佛臂得惡報緣 出菩薩本行經略要  
昔佛在世時尊者舍利弗常以道眼觀於衆生應得  
度者輒往度之波斯匿王有一大臣名曰歸質財富無  
量應時得度時舍利弗往詣其家而從乞食歸質<sup>6</sup>  
見已禮拜問訊請入設食食訖已竟爲其說法富貴榮  
祿衆苦之本居家恩愛猶如牢獄一切所有皆悉非常

二十七

歸質聞法心意竦然居便以僕付囑其弟以婦妻之<sup>8</sup>  
即便出家入山坐禪其婦憶夫愁憂不樂弟語嫂<sup>13</sup>  
言汝今與我共爲夫婦何故常愁婦語<sup>14</sup>夫言我憶前  
夫是以愁耳弟見嫂思恐兄反戒奪其居僕即<sup>15</sup>  
便雇賊往殺其兄賊到山中語沙門言汝弟雇我使來殺<sup>17</sup>  
汝兄聞恐怖便語賊言我新入道<sup>18</sup>又未見佛不解道法<sup>19</sup>  
且莫殺我我聽法我見佛殺我不遲賊語之言今當<sup>20</sup>

1 × 2 此福報 3 成

4 師

5 師

6 師

7 ×

8 師 9 悚 10 業 11 × 12 ×

13 其夫復問

14 復答

15 返 16 業

17 沙門 18 作道人

19 須我見佛少解經法 20 必



殺汝必<sup>1</sup>不得止兄<sup>2</sup>即舉臂<sup>3</sup>語其賊言<sup>4</sup>且斫一臂留我殘命使  
見佛時賊便斫一臂持去兄<sup>6</sup>往佛所佛爲說法得阿羅  
漢便<sup>7</sup>■<sup>8</sup>般涅槃賊持其臂<sup>9</sup>往與弟弟得兄臂<sup>11</sup>

著於婦前語其婦言云汝思前聳<sup>12</sup>此是其臂婦見

悲泣哽咽不樂便往白王王即推獲便殺其弟比丘見已

而白佛言今此沙門前世之時作何惡行今見斫臂復脩何

德值佛得道佛告比丘乃往過去波羅奈國婆羅達王

二十八

出行遊獵迷失道徑<sup>16</sup>草木參天見一辟支<sup>17</sup>即問其道時辟

支佛臂有惡瘡不能舉手即便持脚示乘其道徑王

便瞋恚拔刀斬辟支<sup>19</sup>念言王若不悔當受重罪無有出

期即於王前飛昇虚空神足變現王見投地舉聲大哭

懺謝辟支<sup>21</sup>唯願來下受我懺悔辟支<sup>22</sup>即下受王懺悔王

持頭面禮辟支<sup>25</sup>足自陳而言唯見矜愍受我懺悔願莫使

我久受苦痛時辟支佛<sup>27</sup>即入涅槃王便即因起塔供養常

1 × 2 沙門 3 一臂 4 ×

5 得見 6 沙門 7 漢道

8 放身命而（大谷大學所藏本では三字分の見

せ消ちがある。）

9 擔 10 持與 11 便持 12 婿

13 ×

14 世尊 15 阿羅漢道

16 徑路 17 佛王

18 ×

19 斫斷其臂 20 支佛

21 悔過自 22 支佛 23 支佛 24 其

25 佛足 26 ×

27 便放身命入無餘 28 收取耶旬 29 花香供

[10]

於塔前懺悔求願得度脫佛語比丘今此沙門王於前世  
斫辟支臂五百世中常被斫臂苦痛而死乃至今日由前  
懺悔不墮地獄值佛得道佛告比丘一切殃福終不朽敗  
駒那羅過去懷鹿眼得惡報緣 出阿育王經 昔阿育王  
婦蓮華夫人產一子面貌端政目似駒那羅鳥眼因字駒  
那羅王甚愛敬長爲取婦字真金鬘後共王至鷄頭摩  
寺到上坐所上坐夜奢知必失眼當爲說法眼無常相王

二十九

大夫人帝失羅叉見眼端政染心逼之子聞掩耳不順  
其志夫人瞋恚常求其短欲挑其眼後時北方乾陀  
羅國城名得叉尸羅人民叛逆王遣鎮之後時王病口中糞  
臭身諸毛孔糞汁流出無人能治勅喚駒那欲紹王位帝失  
羅叉聞已念言彼若爲王我無活理即作方便而白王言我  
能治王即勅國內似王病者皆勅將來我爲治之時有一  
男有如此病婦爲問醫醫語將來爲汝治之既至醫即

1 而得 2 言爾時王者此沙門是

3 由斫 4 支佛 5 見 6 × 7 × 8 ×

9 解了智慧而得度脫成阿羅漢道 10 諸比

11 壞

12 正 13 ×

14 娶

15 × 16 座 17 常

18 正

19 ×

20 × 21 醫所

送與夫人夫人殺之破腹見虫<sup>1</sup>上去糞隨下行亦爾與種種樂<sup>2</sup>不能令死後乃與葱虫<sup>3</sup>便即死以是<sup>5</sup>因緣勸王食葱王食虫<sup>7</sup>死遂糞道出王病得差語夫人言欲得何願答言欲得七日作王<sup>8</sup>即聽之既得王已誑<sup>9</sup>作王書語得又人云駒那羅有大罪過急挑眼出作書已竟向王眠睡偷王齒印王夢驚覺語夫人言夢見二驚欲挑我子駒那羅眼言已還眠復夢驚覺語夫人言夢見駒那羅頭髮甚長在

三十

地而坐夫人安慰王復還眠已夫人得印印書遣使齋去王復夢見牙齒墮落曉善<sup>12</sup>相師占夢吉凶師言此夢必是王子失眠之相王聞合掌歸命四方護佛道神信法僧者願護我子書至彼國駒那得書即信其語雇旃陀羅使挑其眼無肯挑者但業<sup>13</sup>緣熟自然有人面<sup>14</sup>十八醜來求挑眼王語醜人先挑一眼著我手中舉刀向眼一切人民稱怨大喚恠哉苦哉啼哭懊惱不能自勝既挑眼已王

1 蟲

2 藥

3 蒜

4 蟲

5 ×

6 蒜

7 蟲

8 王即

9 詐

10 ×

11 眠

12 召

13 緣業

14 有

15 (以下、三十一丁の9まで阿育王傳による。)

就掌中觀眼無常得須陀洹更取一眼重復觀察得<sup>1</sup>

1 × 2 ×

斯陀含駒那羅婦見夫挑眼流血汚身懊惱哽咽悶絕

3 × 4 身體

覺地水灑<sup>5</sup>乃悟起立啼哭而作是言清淨好眼毀壞如此<sup>9</sup>

5 以水 6 面還得醒 7 妙好清 8 ×

駒那答婦我昔自造今日受之恩愛會離何用啼爲後<sup>14</sup>

9 乃如此（こゝまで阿育王傳による。）

人驅出夫婦相將彈琴歌乞以自存洛展轉而行歸還本

10 時駒 11 羅王答 12 等 13 啼哭 14 使

國欲入王宮門人約之即至門外象廐中宿向曉彈琴自

15 活

宣苦事王聞琴聲情切憶子即遣人喚既至王所王見眼

三十一

盲形容黑瘦惡衣裳弊壞都欲不識見少形相尋即

16 ×

問言汝是我子駒那羅不答言我是王聞其語悶絕

地水灑乃甦抱著膝上手摩<sup>18</sup>剎<sup>19</sup>眼涕泣而言汝眼本似駒

17 蘇 18 攷 19 啼

那羅故遂以爲字今悉無有以何爲名誰挑汝眼使汝

辛苦憔悴<sup>21</sup>乃爾速疾語我我今見汝形體憔悴<sup>22</sup>譬如猛

21 瘁 22 瘁

火燒我身心都悉壞盡子語王言願莫憂惱我自造業不

可怨他得父王書齒印勅挑王立誓言若我勅挑當自截

舌若與齒印當拔我齒若我眼見自挑其眼王後推察

是知羅叉作書遣挑王呼罵曰不舌惡物何地載汝汝於今

者不自蹈沒實我怨詐壞親時附種種罵訖積胡膠火

而燒殺之諸比丘見而問尊者憂波匄多有何因緣尊

者答言駒那羅往昔波羅棕國作一獵師於山峒中得五

百鹿若都殺者肉則臭爛挑其眼出日食一鹿從是已

來五百身中常被挑眼又於過去拘樓孫佛入涅槃後時

三十二

有國王名曰端嚴爲起石塔七寶莊嚴王死之後有一惡王

名曰不信壞塔取寶唯留土木駒那羅爾時爲長者子還

以七寶脩此治塔復造大像與佛齊等發誓願言使我

來世如似此佛得勝解脫緣本造塔生尊貴家由昔作

像常得端政以發願故今獲道迹

1 知是 2 刹 3 吉

4 陷 5 汝實 6 懷 7 ×

8 爾時諸 9 優

10 曰 11 奈 12 窟

13 爛

14 ×

15 治此 16 共

17 正

金藏論卷第一

